

讃岐っ子、女子の肥満傾向の改善進む

— 歯垢・歯肉の状態は、幼稚園・中学校・高等学校で前年度より改善 —

平成24年度 学校保健統計調査結果(香川県分)

□ 調査の概要

学校保健統計調査は、幼児、児童及び生徒(以下「児童等」という。)の発育状態及び健康状態を明らかにするために昭和23年から毎年実施されている基幹統計調査です。

文部科学大臣が指定した県内149校(幼稚園、小学校、中学校、高等学校)に在籍する5歳から17歳(平成24年4月1日現在満年齢)までの児童等を対象に、平成24年4月～6月に行われた健康診断の結果をもとに調査を実施したものです。

□ 調査結果の概要

◆発育状態調査

◇身長

- ・前年度調査結果と比べると、男子は5歳、8歳、11歳、14歳～16歳の各年齢で前年度の値を上回っており、6歳、7歳、10歳、12歳、13歳及び17歳の各年齢で前年度の値を下回っている。女子は8歳、11歳～14歳、17歳の各年齢で前年度の数値を上回っており、7歳、9歳及び10歳の各年齢で前年度の値を下回っている。
- ・全国平均と比べると、男子は8歳及び14歳、女子は8歳及び11歳を除くすべての年齢で全国平均値を下回っている。

◇体重

- ・前年度調査結果と比べると、男子は10歳～13歳、16歳及び17歳の各年齢で前年度の値を下回り、6歳、8歳、14歳及び15歳の各年齢で前年度の値を上回っている。女子は6歳、8歳、11歳、13歳、14歳、16歳及び17歳の各年齢で前年度の値を上回っており、5歳、7歳、9歳、10歳及び12歳の各年齢で前年度の値を下回っている。
- ・全国平均と比べると、男子は5歳、9歳～12歳及び17歳を除く各年齢、女子は5歳～10歳及び15歳を除く各年齢で全国平均値を上回っている。

◇肥満傾向児の出現率

- ・前年度調査結果と比べると、男子は5歳～9歳、13歳及び14歳の各年齢で上昇し、女子は5歳～8歳、11歳、12歳及び15歳の各年齢で低下している。
- ・全国平均と比べると、男子は10歳～12歳、16歳及び17歳を除く各年齢で全国平均値を上回り、女子は6歳、7歳、13歳及び14歳を除く各年齢で全国平均値を下回っている。

◆健康状態調査

◇むし歯(う歯)のある者の割合

- ・前年度調査結果と比べると、小学校、中学校及び高等学校は低下し、幼稚園は上昇している。
- ・近年の推移を見ると、いずれも低下傾向にあり、中学校は2年連続で50%を下回っている。
- ・全国平均値と比べると、すべての学校種別で全国平均値を上回っている。

◇歯垢の状態(歯に相当の付着がある)、歯肉の状態(専門医による診断が必要)の割合

- ・前年度調査結果と比べると、歯垢、歯肉の状態の割合は、ともに幼稚園、中学校、高等学校で前年度より低下しているが、小学校では上昇している。
- ・全国平均値と比べると、歯垢の状態は、中学校、高等学校で全国平均値を上回っており、歯肉の状態は、小学校、中学校及び高等学校で全国平均値を上回っている。

□ 調査対象

区分	学校数 (校)	調査対象校		在籍者数 (人)	調査対象者				
		実数 (校)	割合 (%)		発育状態		健康状態		
					実数 (人)	割合 (%)	実数 (人)	割合 (%)	
合計	468	149	31.8	114,696	12,579	11.0	65,866	57.4	
内訳	幼稚園	170	31	18.2	5,154	1,026	19.9	1,499	29.1
	小学校	178	57	32.0	55,155	5,301	9.6	28,517	51.7
	中学校	78	37	47.4	28,654	4,102	14.3	19,014	66.4
	高等学校	42	24	57.1	25,733	2,150	8.4	16,836	65.4

※発育状態は、調査対象校の該当年齢の無作為抽出児童等が対象で、健康状態は、調査対象校の該当年齢の全児童等が対象である。
※学校数は、学校基本調査結果による。

■ 発育状態調査

【身長】

身長(平均値)は、前年度と比較すると、男子は5, 8, 11, 14~16歳で前年度を上回り、女子は8, 11~14, 17歳で前年度を上回っています。(13年齢区分中、男子は増加6・減少6、女子は増加6・減少3)

全国との比較では、男子は8, 14歳、女子は8, 11歳を除くすべての年齢で下回っています。

(表1. 図1)

各年齢間の身長差をみると、男子は12~13歳の間が7.5cm、女子は10~11歳の間が7.6cmと最も大きくなっています。(図2)

30年前(親の世代)の昭和57年度と比較すると、5歳女子を除くすべての年齢で親の世代の値を超えており、特に12歳男子で2.7cm、11歳女子で2.4cmと最も伸びています。(表1. 図3)

表1 年齢別身長の平均値

(cm)

区分	男子							女子							
	平成24年度				昭和57年度			平成24年度				昭和57年度			
	香川県		全国		順位	香川県		香川県		全国		順位	香川県		
	A	対前年度差	B	A-B		C	A-C	A	対前年度差	B	A-B		C	A-C	
幼稚園	5歳	110.1	0.3	110.5	△ 0.4	34	109.9	0.2	109.2	0.0	109.5	△ 0.3	36	109.6	△ 0.4
小学校	6歳	116.2	△ 0.1	116.5	△ 0.3	34	115.9	0.3	115.5	0.0	115.6	△ 0.1	26	115.2	0.3
	7歳	122.1	△ 0.4	122.4	△ 0.3	38	121.1	1.0	121.2	△ 0.2	121.6	△ 0.4	37	120.6	0.6
	8歳	* 128.4	0.8	128.2	0.2	14	127.0	1.4	127.4	0.4	127.4	0.0	20	125.4	2.0
	9歳	133.2	0.0	133.6	△ 0.4	33	131.4	1.8	132.9	△ 0.3	133.4	△ 0.5	39	131.0	1.9
	10歳	138.6	△ 0.1	138.9	△ 0.3	27	136.3	2.3	139.7	△ 0.3	140.1	△ 0.4	36	137.4	2.3
	11歳	144.9	0.4	145.0	△ 0.1	20	142.5	2.4	* 147.3	0.4	146.7	0.6	7	144.9	2.4
中学校	12歳	151.8	△ 0.1	152.4	△ 0.6	36	149.1	2.7	151.6	0.2	151.9	△ 0.3	29	150.0	1.6
	13歳	159.3	△ 0.6	159.5	△ 0.2	25	156.9	2.4	154.7	0.2	155.0	△ 0.3	29	153.7	1.0
	14歳	165.3	0.5	165.1	0.2	15	162.8	2.5	156.3	0.1	156.5	△ 0.2	29	155.3	1.0
高等学校	15歳	167.8	0.3	168.4	△ 0.6	35	166.7	1.1	156.5	0.0	157.2	△ 0.7	41	156.0	0.5
	16歳	169.6	0.2	169.8	△ 0.2	25	168.6	1.0	157.4	0.0	157.6	△ 0.2	28	156.6	0.8
	17歳	169.9	△ 0.2	170.7	△ 0.8	43	169.0	0.9	157.7	0.3	158.0	△ 0.3	29	156.6	1.1

(注) *は過去の記録を更新したものを示す。
 は、全国平均を上回るものを示す。

図1 全国平均値との差

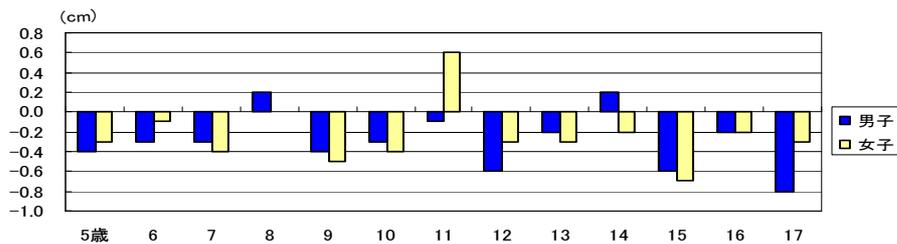
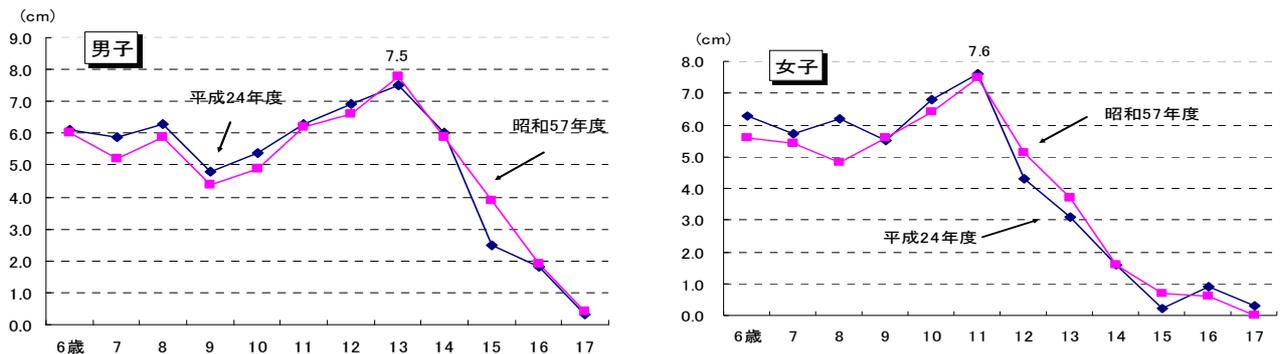
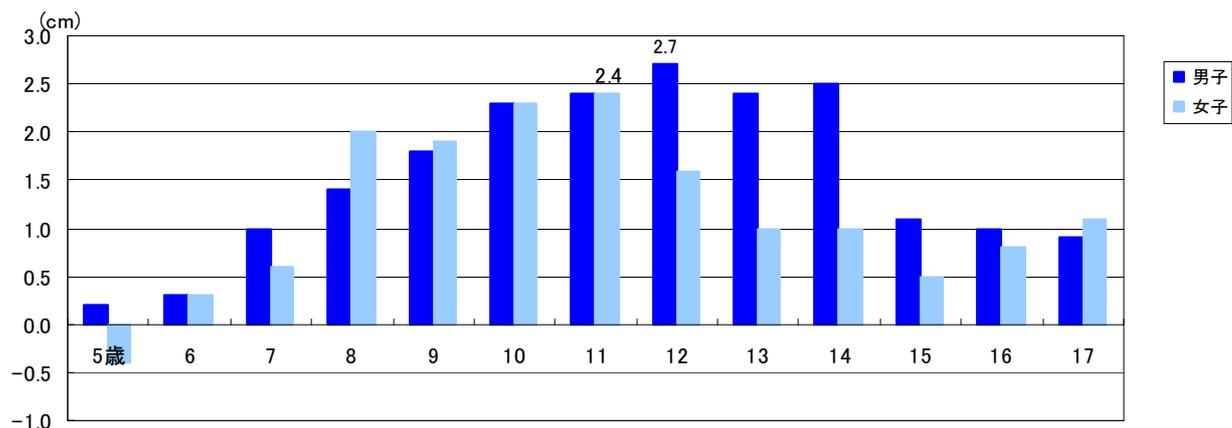


図2 各年齢間の身長差



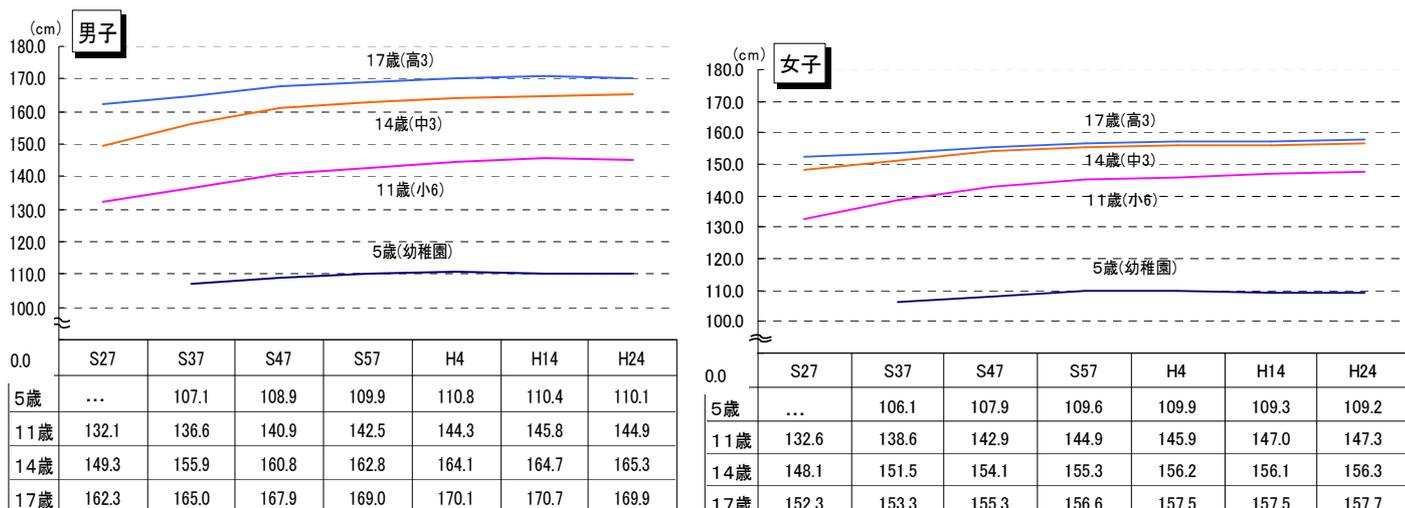
(注) 図中の6歳は(6歳-5歳)であり、7歳は(7歳-6歳)となっている。以下の各図においても同じ。

図3 30年前(親の世代)との身長差(平成24年度ー昭和57年度)



各学校種別の最高学年の身長について、60年間の推移を10年ごとにみると、男子の最高値は5歳が平成4年度、11,17歳が平成14年度、14歳が本年度となっており、女子の最高値は5歳が平成4年度、11,14,17歳が本年度となっています。(図4)

図4 身長の平均値の推移(昭和27年度～平成23年度の10年間隔)



【体 重】

体重(平均値)は、前年度と比較すると、男子は10～13、16、17歳で前年度を下回り、女子は6、8、11、13、14、16、17歳で前年度を上回っています。(13年齢区分中、男子は増加4・減少6、女子は増加7・減少5)

全国との比較では、男子は5、9～12、17歳、女子は5～10、15歳を除き、全国平均を上回っています。(男子高7・低5、女子高6・低3)(表2. 図5)

各年齢間の体重差をみると、男子は13～14歳の間が6.3kg、女子は10～11歳の間が5.7kgと最も大きくなっています。(図6)

30年前(親の世代)の昭和57年度と比較すると、5歳女子を除くすべての年齢で親の世代の値を超えており、特に14歳男子で3.0kg、11歳女子で2.2kgと最も増加しています。(表2. 図7)

表2 年齢別体重の平均値

区 分		男 子					女 子					(kg)										
		平成24年度					昭和57年度					平成24年度					昭和57年度					
		香川県		全国			香川県		全国			香川県		全国			香川県		全国			
		A	対前年度差	B	A-B	順位	C	A-C	A	対前年度差	B	A-B	順位	C	A-C	A	対前年度差	B	A-B	順位	C	A-C
幼稚園	5歳	18.9	0.0	18.9	0.0	18	18.8	0.1	18.5	△ 0.1	18.5	0.0	20	18.5	0.0							
小学校	6歳	21.5	0.3	21.3	0.2	10	21.0	0.5	20.9	0.2	20.9	0.0	23	20.5	0.4							
	7歳	24.1	0.0	24.0	0.1	18	23.0	1.1	23.3	△ 0.2	23.5	△ 0.2	35	22.8	0.5							
	8歳	27.5	0.7	27.1	0.4	11	26.0	1.5	26.2	0.1	26.3	△ 0.1	32	25.2	1.0							
	9歳	30.1	0.0	30.5	△ 0.4	38	28.5	1.6	29.5	△ 0.2	29.9	△ 0.4	36	28.0	1.5							
	10歳	33.7	△ 0.3	34.0	△ 0.3	31	31.9	1.8	34.0	△ 0.3	34.0	0.0	27	31.9	2.1							
中学校	11歳	37.9	△ 0.3	38.2	△ 0.3	26	35.3	2.6	39.7	0.1	38.9	0.8	12	37.5	2.2							
	12歳	43.7	△ 0.2	44.0	△ 0.3	30	41.6	2.1	43.9	△ 0.4	43.7	0.2	20	42.8	1.1							
	13歳	49.1	△ 0.8	49.0	0.1	20	47.3	1.8	47.9	0.5	47.4	0.5	11	47.2	0.7							
高等学校	14歳	55.4	1.1	54.2	1.2	8	52.4	3.0	50.6	0.4	49.9	0.7	9	49.4	1.2							
	15歳	59.5	0.3	59.2	0.3	19	56.9	2.6	51.6	0.0	51.6	0.0	20	51.5	0.1							
	16歳	61.2	△ 1.3	61.1	0.1	21	58.4	2.8	52.9	0.4	52.5	0.4	20	51.7	1.2							
	17歳	62.7	△ 0.5	62.9	△ 0.2	29	60.0	2.7	53.0	0.7	52.9	0.1	25	51.7	1.3							

(注) は、全国平均を上回るものを示す。

図5 全国平均値との差

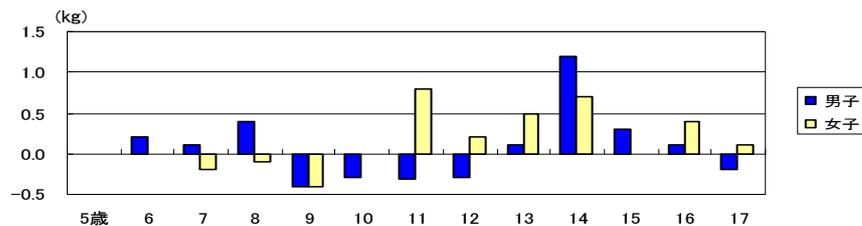


図6 各年齢間の体重差

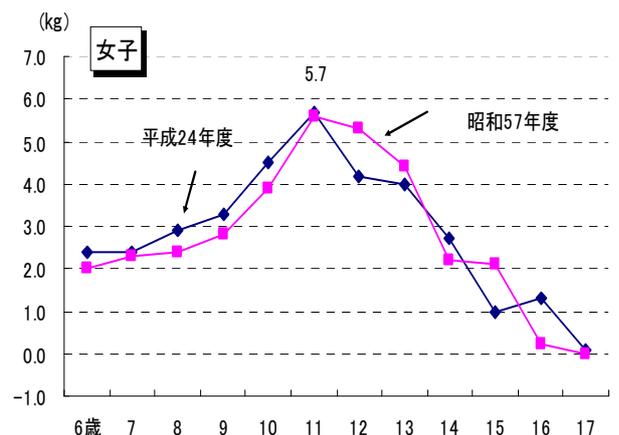
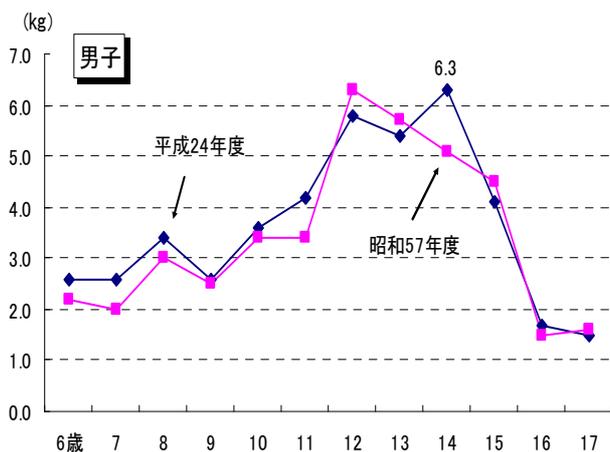
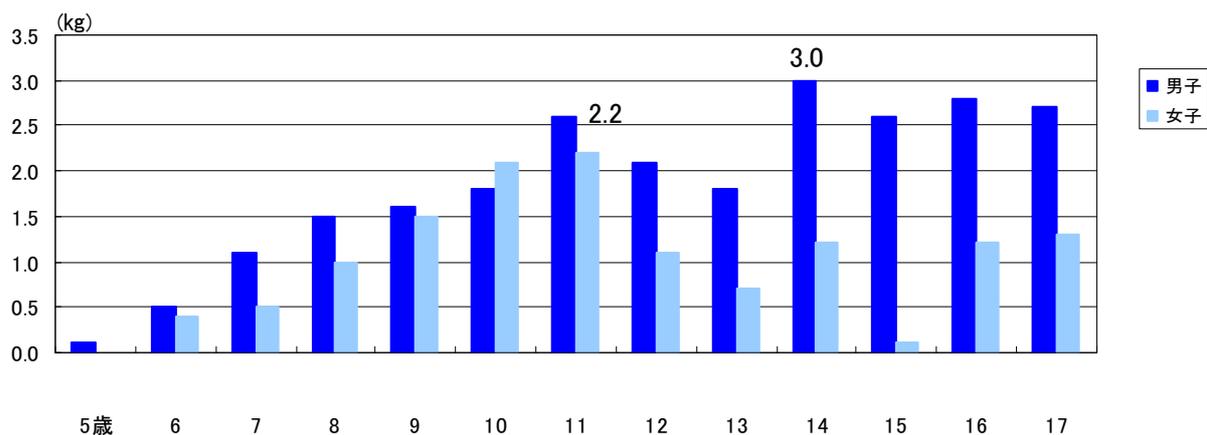
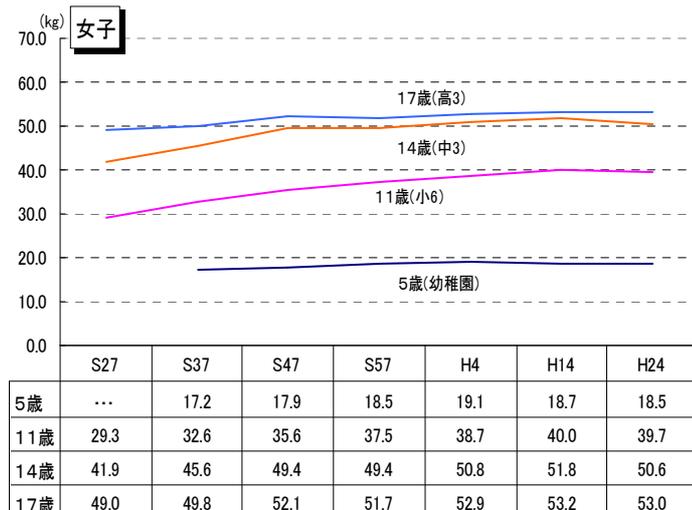
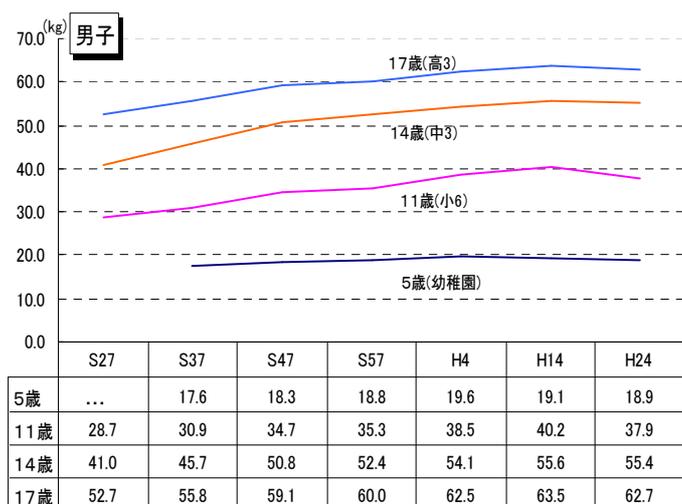


図7 30年前(親の世代)との体重差(平成24年度ー昭和57年度)



各学校種別の最高学年の体重について、60年間の推移を10年ごとにみると、男子の最高値は5歳が平成4年度、11, 14, 17歳が平成14年度となっており、女子の最高値は5歳が平成4年度、11, 14, 17歳が平成14年度となっています。(図8)

図8 体重の平均値の推移(昭和27年度～平成24年度の10年間隔)



【座 高】

座高(平均値)は、前年度と比較すると、男子は7, 9, 12~14, 17歳で前年度を下回り、女子は8, 11, 12, 14~17歳で前年度を上回っています。(13年齢区分中、男子は増加5・減少6、女子は増加7・減少6)

全国との比較では、男子は5, 6, 8, 10, 11歳、女子は5~8, 11, 14歳を除き、全国平均を下回っています。(男子は高1・低8、女子は高4・低7) (表3. 図9)

各年齢間の座高差をみると、男子は12~13歳の間が3.9cm、女子は10~11歳の間が4.0cmと最も大きくなっています。(図10)

30年前(親の世代)の昭和57年度と比較すると、5, 6歳男女を除くすべての年齢で親の世代の値を超えており、特に14歳男子で1.8cm、11歳女子で1.5cmと最も伸びています。(表3. 図11)

表3 年齢別座高の平均値

(cm)

区 分		男 子					女 子								
		平成24年度			昭和57年度		平成24年度			昭和57年度					
		香川県 A	対前年度差	全国 B	A-B	順位	香川県 C	A-C	香川県 A	対前年度差	全国 B	A-B	順位	香川県 C	A-C
幼稚園	5歳	61.9	0.1	61.9	0.0	20	62.2	△ 0.3	61.5	△ 0.1	61.4	0.1	18	61.9	△ 0.4
小学校	6歳	64.8	0.0	64.8	0.0	20	65.1	△ 0.3	64.5	△ 0.1	64.4	0.1	15	64.5	0.0
	7歳	67.5	△ 0.3	67.6	△ 0.1	27	67.2	0.3	67.3	△ 0.1	67.3	0.0	15	66.9	0.4
	8歳	70.3	0.2	70.3	0.0	18	69.9	0.4	70.0	0.1	69.9	0.1	15	69.1	0.9
	9歳	72.4	△ 0.2	72.6	△ 0.2	32	71.7	0.7	72.3	△ 0.3	72.6	△ 0.3	43	71.6	0.7
	10歳	74.9	0.0	74.9	0.0	18	73.8	1.1	75.7	△ 0.3	75.8	△ 0.1	29	74.6	1.1
	11歳	77.7	0.2	77.5	0.2	15	76.2	1.5	* 79.7	0.2	79.2	0.5	6	78.2	1.5
中学校	12歳	80.7	△ 0.1	81.3	△ 0.6	45	79.2	1.5	81.9	0.3	82.2	△ 0.3	43	80.8	1.1
	13歳	84.6	△ 0.5	84.9	△ 0.3	36	83.1	1.5	83.4	△ 0.2	83.9	△ 0.5	45	82.8	0.6
	14歳	87.9	△ 0.1	88.2	△ 0.3	37	86.1	1.8	* 84.9	0.1	84.9	0.0	24	83.9	1.0
高等学校	15歳	90.0	0.3	90.3	△ 0.3	41	88.9	1.1	85.1	0.1	85.4	△ 0.3	41	84.4	0.7
	16歳	* 91.2	0.1	91.3	△ 0.1	29	90.0	1.2	* 85.4	0.1	85.7	△ 0.3	38	84.6	0.8
	17歳	91.4	△ 0.4	91.9	△ 0.5	46	90.2	1.2	85.7	0.3	85.8	△ 0.1	26	84.6	1.1

(注) *は過去の記録を更新したものを示す。
 は、全国平均を上回るものを示す。

図9 全国平均値との差

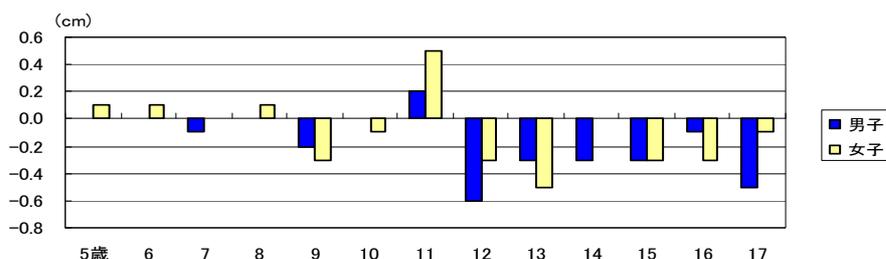


図10 各年齢間の座高差

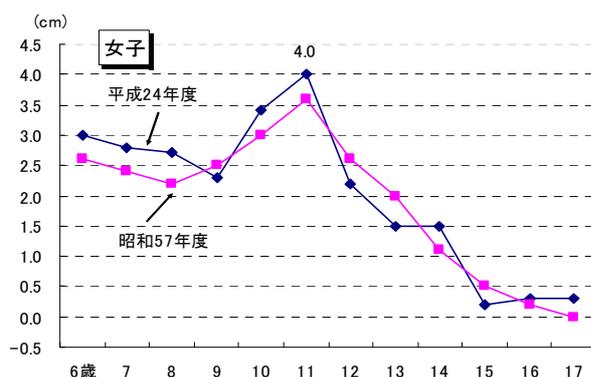
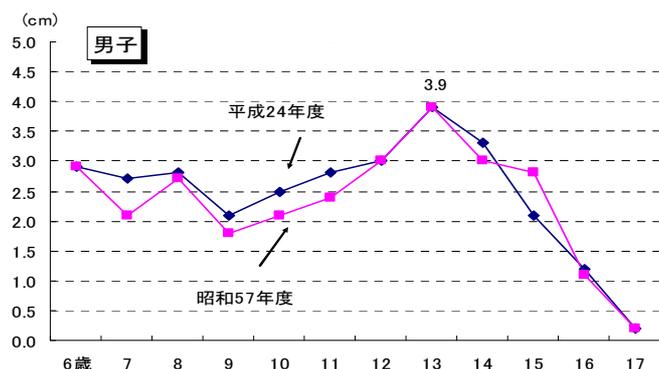
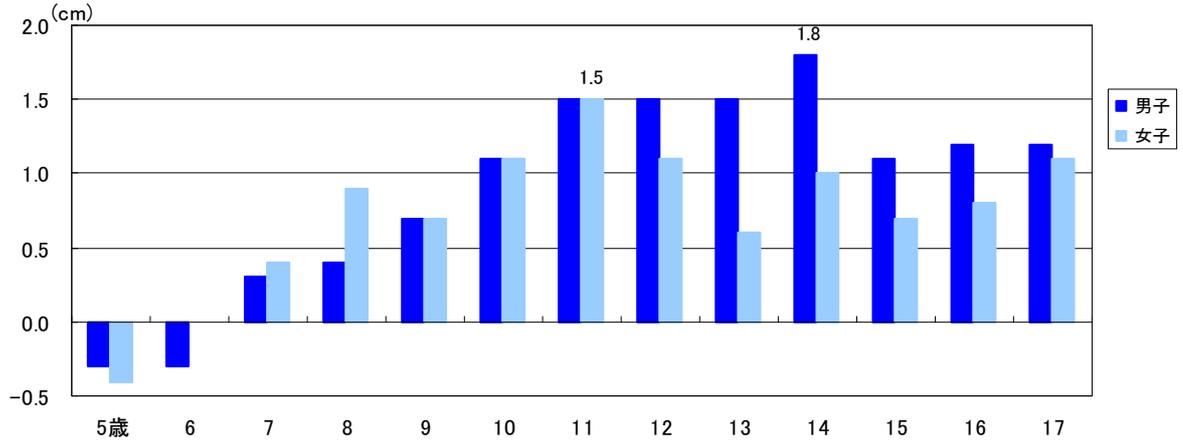
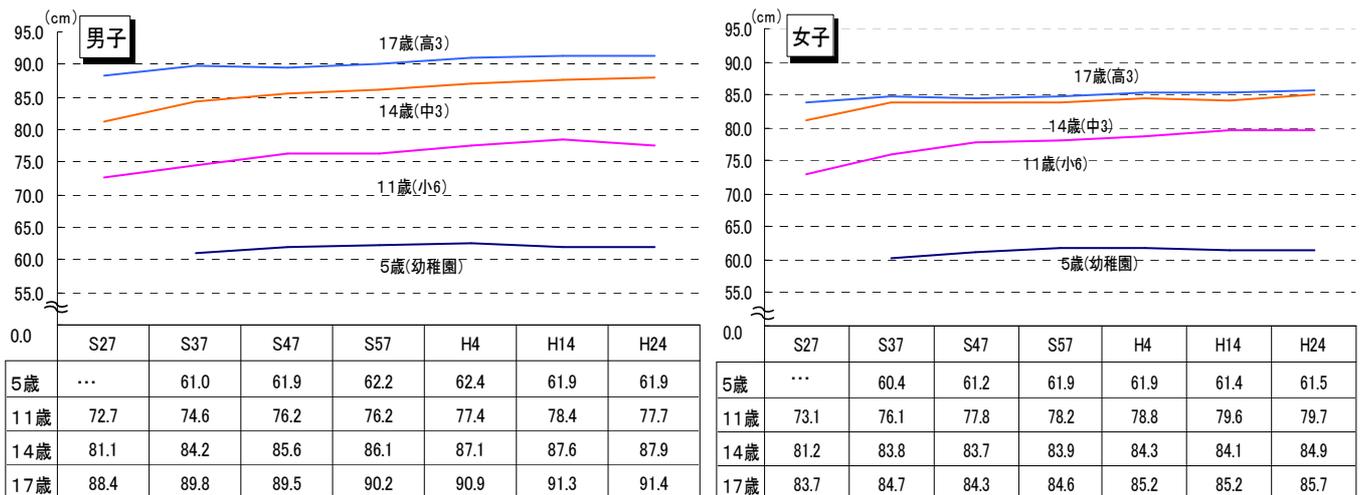


図 11 30 年前(親の世代)との座高差(平成 24 年度－昭和 57 年度)



各学校種別の最高学年の座高について、60 年間の推移を 10 年ごとにみると、男子の最高値は 5 歳が平成 4 年度、11 歳が平成 14 年度、14, 17 歳が本年度となっており、女子の最高値は 5 歳が昭和 57 年度、平成 4 年度、11, 14, 17 歳が本年度となっています。(図 12)

図 12 座高の平均値の推移(昭和 27 年度～平成 24 年度の 10 年間隔)



【肥満傾向児の出現率】

肥満傾向児の出現率は、前年度と比較すると、男子は5～9, 13, 14歳で上昇し、女子は5～8, 11, 12, 15歳で低下しています。(13年齢区分中、男子は上昇7・低下6、女子は上昇6・低下7)

全国との比較では、男子は10～12, 16, 17歳を除き全国平均を上回っており、女子は6, 7, 13, 14歳を除き、全国平均を下回っています。(男子は高8・低5、女子は高4・低9)

各年齢別の出現率をみると、男子が15歳で13.50%、女子が14歳で10.20%と最も高くなっています。

(表4. 図13)

表4 肥満傾向児の出現率

(%)

区分	年齢	計					男子					女子				
		香川県 A	対前年度差	全国 B	A-B	順位	香川県 A	対前年度差	全国 B	A-B	順位	香川県 A	対前年度差	全国 B	A-B	順位
幼稚園	5歳	2.58	△ 0.19	2.39	0.19	19	3.12	0.82	2.41	0.71	13	2.02	△ 1.20	2.36	△ 0.34	26
	6歳	6.05	1.43	4.22	1.83	10	7.59	3.92	4.09	3.50	3	4.53	△ 1.07	4.37	0.16	20
小学校	7歳	6.78	0.73	5.41	1.37	13	7.64	1.91	5.58	2.06	10	5.89	△ 0.49	5.23	0.66	22
	8歳	7.30	0.46	6.62	0.68	20	8.84	1.52	7.13	1.71	15	5.67	△ 0.66	6.09	△ 0.42	31
	9歳	8.51	2.66	8.26	0.25	22	9.73	3.82	9.24	0.49	20	7.21	1.42	7.23	△ 0.02	28
	10歳	8.12	△ 0.39	8.82	△ 0.70	32	8.99	△ 1.08	9.86	△ 0.87	28	7.20	0.37	7.73	△ 0.53	32
	11歳	7.51	△ 2.72	9.32	△ 1.81	40	7.02	△ 3.32	9.98	△ 2.96	44	8.03	△ 2.09	8.61	△ 0.58	29
中学校	12歳	9.10	△ 1.17	9.68	△ 0.58	28	9.94	△ 0.75	10.67	△ 0.73	30	8.23	△ 1.60	8.64	△ 0.41	28
	13歳	9.99	0.91	8.44	1.55	9	10.65	0.58	8.96	1.69	12	9.29	1.25	7.90	1.39	13
	14歳	10.50	1.71	7.90	2.60	6	10.80	2.42	8.43	2.37	10	10.20	0.98	7.36	2.84	5
高等学校	15歳	10.53	△ 1.46	9.98	0.55	17	13.50	△ 0.09	11.41	2.09	13	7.52	△ 2.90	8.51	△ 0.99	36
	16歳	8.51	△ 1.86	9.00	△ 0.49	30	9.43	△ 4.16	10.25	△ 0.82	29	7.61	0.45	7.74	△ 0.13	25
	17歳	9.29	0.24	9.55	△ 0.26	25	10.53	△ 0.81	10.91	△ 0.38	27	8.06	1.29	8.18	△ 0.12	27

(注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。
 肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

図13 肥満傾向児の年齢別出現率

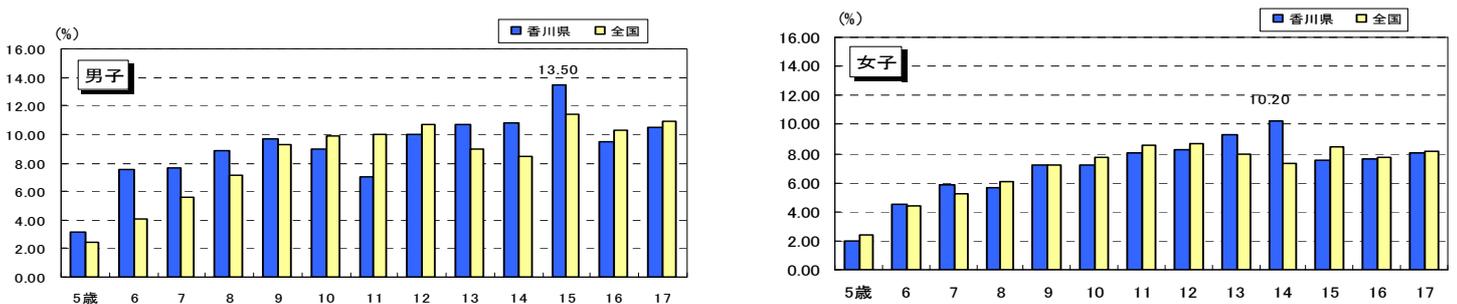
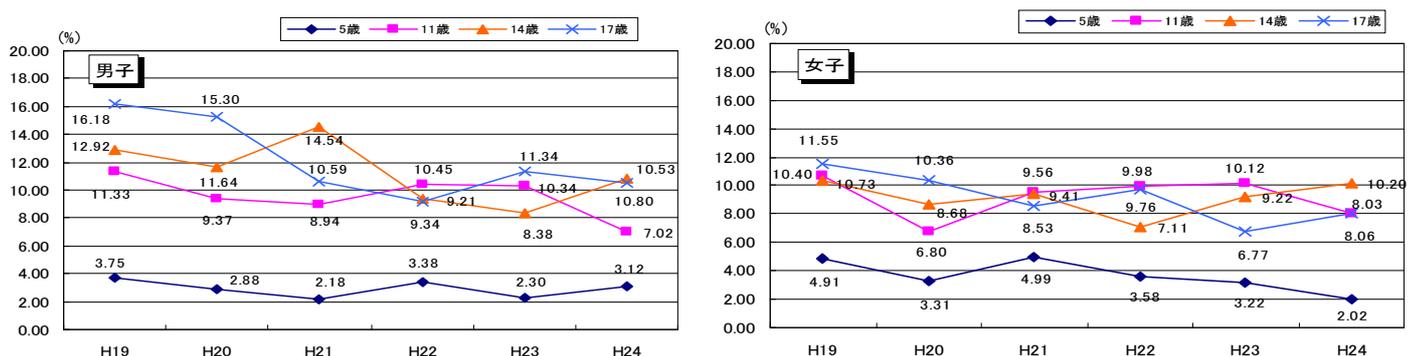


図14 肥満傾向児の出現率の推移



【痩身傾向児の出現率】

痩身傾向児の出現率は、前年度と比較すると、男子は5～8, 11, 16, 17歳で上昇し、女子は6, 8, 10, 13, 15～17歳で低下しています。(13年齢区分中、男子は上昇7・低下6、女子は上昇6・低下7)

全国との比較では、男子は5, 6, 11, 17歳、女子は6, 7, 9歳を除き、全国平均を下回っています。(男子は高4・低9、女子は高3・低10)

各年齢別の出現率をみると、男子は11歳で3.43%、女子は12歳で3.13%と最も高くなっています。(表5. 図15)

表5 痩身傾向児の出現率

(%)

区分	年齢	計					男子					女子				
		香川県 A	対前年度差	全国 B	A-B	順位	香川県 A	対前年度差	全国 B	A-B	順位	香川県 A	対前年度差	全国 B	A-B	順位
幼稚園	5歳	0.47	0.47	0.36	0.11	15	0.80	0.80	0.36	0.44	5	0.14	0.14	0.35	△ 0.21	39
小学校	6歳	0.64	△ 0.16	0.42	0.22	7	0.56	0.23	0.27	0.29	8	0.72	△ 0.55	0.57	0.15	13
	7歳	0.58	0.25	0.54	0.04	18	0.43	0.43	0.49	△ 0.06	25	0.73	0.05	0.60	0.13	15
	8歳	0.76	0.01	1.11	△ 0.35	34	0.67	0.27	1.06	△ 0.39	30	0.86	△ 0.27	1.16	△ 0.30	32
	9歳	1.64	0.06	1.64	0.00	25	1.24	△ 0.91	1.44	△ 0.20	31	2.06	1.08	1.85	0.21	16
	10歳	1.72	△ 0.82	2.55	△ 0.83	40	1.83	△ 1.17	2.49	△ 0.66	34	1.59	△ 0.45	2.61	△ 1.02	43
	11歳	3.10	1.29	3.25	△ 0.15	19	3.43	1.04	3.38	0.05	18	2.74	1.54	3.12	△ 0.38	22
中学校	12歳	2.22	△ 0.24	3.27	△ 1.05	39	1.34	△ 0.97	2.40	△ 1.06	43	3.13	0.52	4.18	△ 1.05	34
	13歳	1.54	△ 0.57	2.63	△ 1.09	44	0.84	△ 0.25	1.66	△ 0.82	45	2.27	△ 0.91	3.64	△ 1.37	42
	14歳	1.45	△ 0.24	2.49	△ 1.04	41	0.64	△ 0.70	1.79	△ 1.15	45	2.30	0.24	3.22	△ 0.92	32
高等学校	15歳	1.06	△ 0.78	2.39	△ 1.33	47	1.68	△ 0.77	2.35	△ 0.67	31	0.44	△ 0.79	2.43	△ 1.99	47
	16歳	1.61	0.28	2.00	△ 0.39	31	1.48	0.75	1.89	△ 0.41	27	1.74	△ 0.19	2.12	△ 0.38	24
	17歳	1.71	0.38	1.75	△ 0.04	19	1.94	0.91	1.64	0.30	15	1.48	△ 0.15	1.85	△ 0.37	27

(注) 痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下の者である。
 肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

図15 痩身傾向児の年齢別出現率

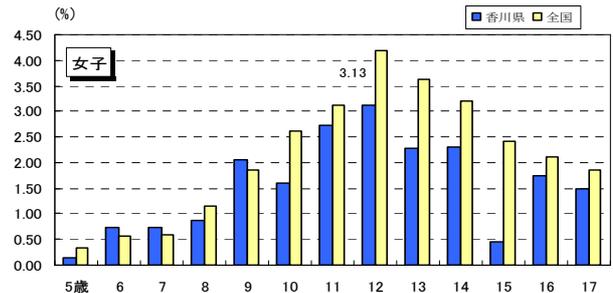
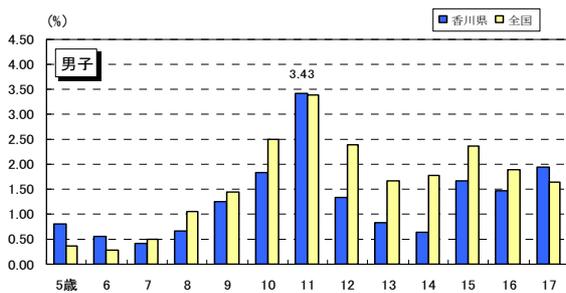
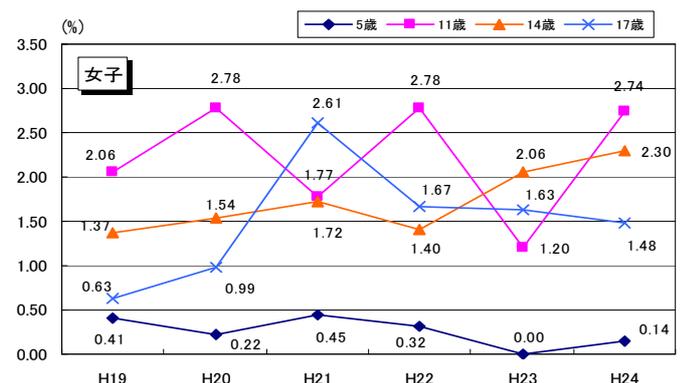
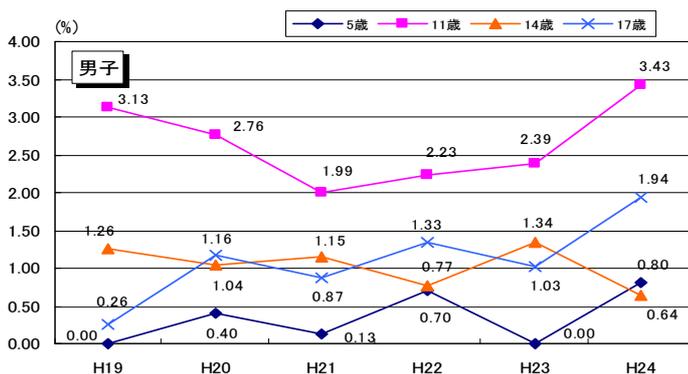


図16 痩身傾向児の出現率の推移



■ 健康状態調査

【主な疾病・異常被患率】

各年齢別の主な疾病・異常被患率をみると、「裸眼視力 1.0 未満」は、年齢が進むにつれて被患率が高くなる傾向があり、その一方で「耳疾患」、「アトピー性皮膚炎」などについては、概ね年齢が進むにつれて被患率が低くなる傾向があります。(表 6)

表6 疾病・異常の被患率

(%)

区分	裸眼視力				眼の疾病・異常	耳鼻咽頭			歯・口腔			アトピー性皮膚炎	心電図異常	蛋白検出の者	ぜん息	
	計	1.0未満 0.7以上	0.7未満 0.3以上	0.3未満		耳疾患	鼻・副 鼻腔疾患	口腔 咽喉頭 疾患・ 異常	むし歯(う歯)							
									計	処置完 了者	未処置 歯のある 者					
幼稚園 5 歳	17.8	12.9	4.6	0.4	3.1	3.6	5.1	0.8	53.8	23.9	29.9	1.8	…	0.6	0.6	
小学校	計	29.9	9.3	11.7	8.9	5.2	6.9	13.1	0.9	61.1	34.3	26.8	3.3	2.6	0.6	3.6
	6 歳	14.7	9.3	4.5	0.9	4.1	9.3	12.9	1.4	59.3	28.1	31.2	3.7	2.6	0.2	4.0
	7	20.3	10.0	7.8	2.6	5.1	8.0	12.7	1.3	65.6	33.2	32.4	4.0	…	0.5	4.1
	8	24.5	9.3	10.3	4.8	4.1	7.9	12.1	0.7	66.8	38.8	28.0	3.8	…	0.7	4.2
	9	34.3	10.3	14.6	9.4	6.3	5.5	12.9	0.8	66.3	38.8	27.5	2.6	…	0.6	3.2
	10	40.6	8.5	15.9	16.2	5.9	6.1	14.2	0.7	59.2	34.4	24.8	3.6	…	0.7	3.6
中学校	11	42.9	8.7	16.2	18.1	5.8	5.0	13.4	0.7	50.1	32.3	17.8	2.4	…	1.1	2.5
	計	69.1	42.8	13.0	13.3	3.6	3.7	10.5	0.3	47.1	28.4	18.6	2.7	3.2	1.9	1.6
	12 歳	X	X	X	X	4.1	4.6	12.5	0.4	43.1	26.3	16.8	2.9	3.2	1.4	1.9
	13	X	X	X	X	3.5	3.5	10.4	0.4	45.4	28.5	17.0	2.6	…	2.1	1.3
高等学校	14	X	X	X	X	3.3	3.1	8.5	0.2	52.7	30.6	22.1	2.6	…	2.2	1.6
	計	73.7	10.1	14.0	49.6	2.8	3.0	10.8	0.1	59.5	36.1	23.4	2.6	3.1	1.3	1.5
	15 歳	X	X	X	X	2.5	3.5	11.3	0.2	52.9	33.4	19.6	2.6	3.1	1.5	1.6
	16	74.6	X	X	X	3.2	2.3	10.4	0.0	61.4	37.2	24.2	2.5	…	1.2	1.5
17	X	X	X	X	2.8	3.2	10.6	0.1	64.2	37.7	26.5	2.7	…	1.2	1.4	

(注) 1 この表は、疾病・異常該当者(疾病・異常に該当する旨健康診断票に記載のあった者)の占める割合を示したものである。

2 「…」については、調査対象とならなかった場合である。

3 「X」は、疾病・異常被患率の標準誤差が5%以上、受検者数が100人(5歳は50人)未満または回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。

4 四捨五入の関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

【学校種別疾病・異常被患率】

幼稚園、小学校、中学校及び高等学校で「むし歯(う歯)」が最も高くなっています。(表7)

※中学校、高等学校は「裸眼視力1.0未満」を除く。

表7 学校種別疾病・異常の被患率

順位	幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
	区分	%	区分	%	区分	%	区分	%
1	むし歯(う歯)	53.8	むし歯(う歯)	61.1	むし歯(う歯)	47.1	むし歯(う歯)	59.5
2	裸眼視力1.0未満	17.8	裸眼視力1.0未満	29.9	鼻・副鼻腔疾患	10.5	鼻・副鼻腔疾患	10.8
3	鼻・副鼻腔疾患	5.1	鼻・副鼻腔疾患	13.1	歯垢の状態	6.3	歯垢の状態	7.7
4	耳疾患	3.6	歯・口腔(その他)	8.1	歯列・咬合	6.0	歯肉の状態	7.1
5	眼の疾病・異常	3.1	耳疾患	6.9	歯肉の状態	5.6	歯列・咬合	5.3

※裸眼視力1.0未満を除く ※裸眼視力1.0未満を除く

◎ むし歯(う歯)

むし歯(う歯)のある者の割合は、幼稚園が53.8%、小学校が61.1%、中学校が47.1%、高等学校が59.5%となっています。小学校・中学校・高等学校は前年度より低下していますが、幼稚園は上昇しています。

年齢別にみると8歳が66.8%と最も高く、次いで9歳の66.3%、7歳の65.6%となっています。うち未処置歯のある者の割合は、幼稚園で前年度より上昇しており、小学校・中学校・高等学校では低下しています。また、処置完了者の割合は、7歳以上で未処置歯のある者を上回っています。(図17.表6.表8)

むし歯(う歯)のある者の25年前からの推移を5年ごとにみると、いずれの学校種別も25年前(昭和62年度)から低下傾向にあり、2年連続で中学校では50%を下回りました。(図18.表8)

◎ 歯垢の状態・歯肉の状態

歯垢の状態(歯に相当の付着がある)、歯肉の状態(専門医による診断が必要)の割合は、ともに幼稚園・中学校・高等学校では前年度より低下していますが、小学校では上昇しています。(図19.図20.表8)

図17 むし歯(う歯)のある者の割合

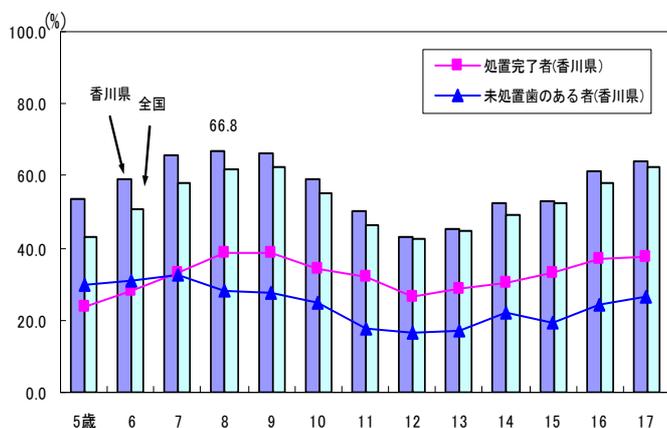


図18 むし歯(う歯)のある者の推移(5年間隔)

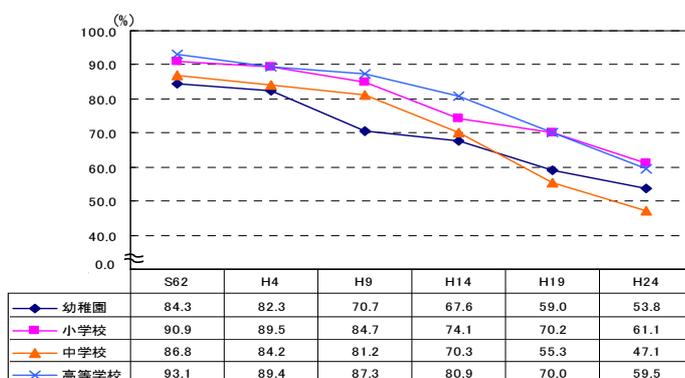


図19 歯垢の状態の推移

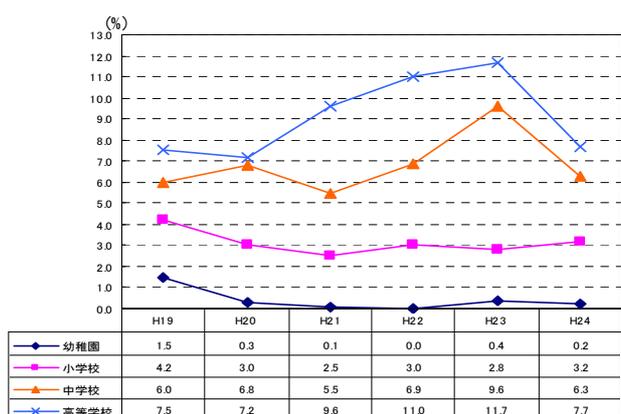
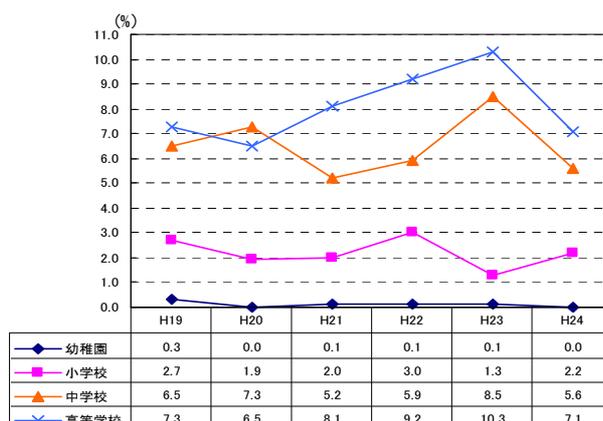


図20 歯肉の状態の推移



◎ 裸眼視力 1.0 未満の者

裸眼視力 1.0 未満の者の割合は、幼稚園が 17.8%、小学校が 29.9%、中学校が 69.1%、高等学校が 73.7%、となっています。幼稚園・小学校は前年度より低下しています。（前年度は、中学校・高等学校は非公表）
裸眼視力 1.0 未満の者の割合の推移を 5 年ごとにみると、小学校・中学校・高等学校は上昇傾向にあります。（図 21. 図 22. 表 8）

図 21 裸眼視力 1.0 未満の者の割合

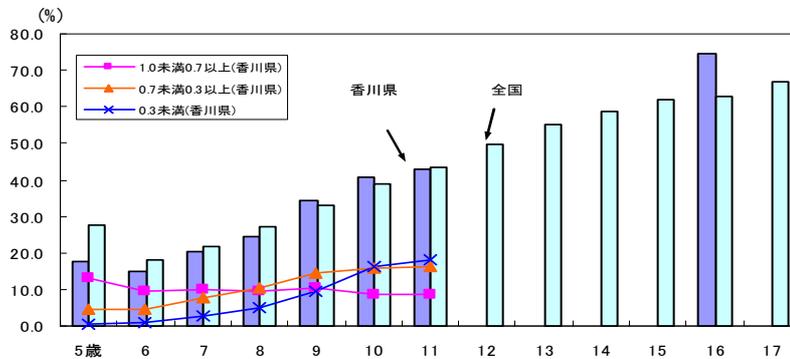
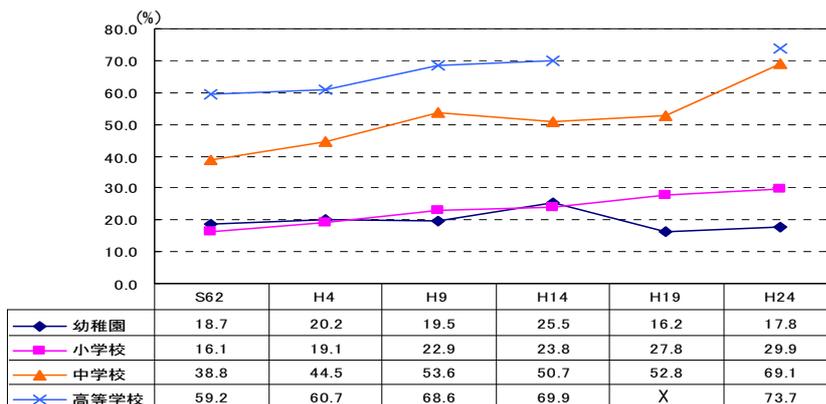


図 22 裸眼視力 1.0 未満の者の推移(5 年間隔)



◎ 鼻・副鼻腔疾患

鼻・副鼻腔疾患の者の割合は、幼稚園が 5.1%、小学校が 13.1%、中学校が 10.5%、高等学校が 10.8% となっています。年齢別にみると 10 歳が 14.2% と高くなっています。前年度と比べ、幼稚園では低下していますが、小学校・中学校・高等学校では上昇しています。（図 23. 表 6. 表 8）

◎ アトピー性皮膚炎

アトピー性皮膚炎の者の割合は、幼稚園が 1.8%、小学校が 3.3%、中学校が 2.7%、高等学校が 2.6% となっています。年齢別にみると 7 歳が 4.0% と最も高くなっています。前年度と比べ、幼稚園・小学校・中学校では低下していますが、高等学校では上昇しています。（図 24. 表 6. 表 8）

図 23 鼻・副鼻腔疾患の者の割合

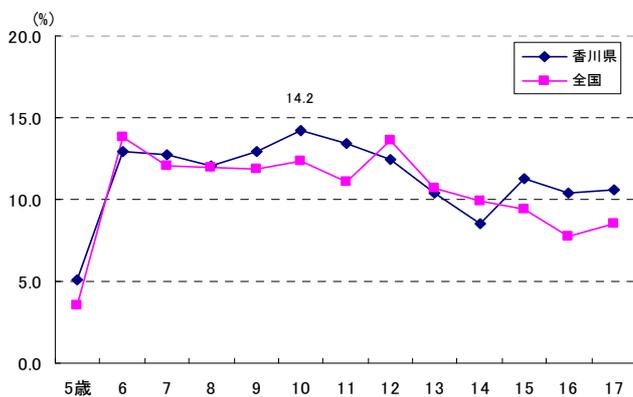
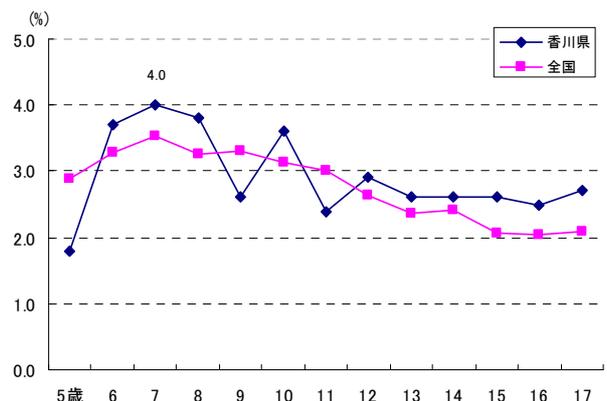


図 24 アトピー性皮膚炎の者の割合



【主な疾病・異常被患率の全国比較】

主な疾病・異常被患率について全国と比較すると、「むし歯(う歯)のある者」については、すべての学校種別で全国を上回っていますが、うち「未処置歯のある者」については、小学校・中学校・高等学校で全国を下回っています。「歯垢の状態」では、中学校・高等学校で全国を上回っており、「歯肉の状態」では、小学校・中学校・高等学校で全国を上回っています。

さらに、「鼻・副鼻腔疾患」については、幼稚園・小学校・高等学校で全国を上回っており、「裸眼視力1.0未満の者」については、中学校・高等学校で全国を上回っています。

また、「耳疾患」については、すべての学校種別で全国を上回っており、「アトピー性皮膚炎」については、小学校・中学校・高等学校で全国を上回っています。(表8. 図25)

表8 主な疾病・異常被患率の全国比較

(%)

区分	裸眼視力 1.0未満 の者	眼の疾 病・異常	耳疾患	鼻・副鼻 腔疾患	むし歯(う歯)			歯・口腔		アトピー 性皮膚炎	心電図 異常	蛋白検出 の者	ぜん息		
					計	処置完了 者	未処置歯 のある者	歯垢の状 態	歯肉の状 態						
幼稚園	平成 20年度	県	26.3	3.1	5.0	6.4	62.1	21.4	40.7	0.3	-	4.4	...	0.7	1.0
		国	28.93	1.92	2.80	3.78	50.25	20.34	29.91	0.54	0.22	3.54	...	0.49	2.65
	21年度	県	18.4	3.2	5.6	6.7	54.3	20.5	33.9	0.1	0.1	3.3	...	0.5	0.7
		国	24.87	2.10	2.91	3.98	46.50	18.77	27.72	1.06	0.29	3.11	...	0.62	2.15
	22年度	県	25.2	2.1	4.7	5.9	49.8	23.7	26.1	-	0.1	2.4	...	0.8	0.5
		国	26.43	2.15	3.34	3.39	46.07	18.36	27.71	0.53	0.20	3.28	...	1.01	2.74
	23年度	県	25.6	1.6	5.6	6.9	42.1	12.5	29.6	0.4	0.1	2.1	...	1.6	1.1
		国	25.48	1.82	2.54	4.37	42.95	16.91	26.04	0.49	0.27	2.87	...	0.76	2.79
	24年度	県	17.8	3.1	3.6	5.1	53.8	23.9	29.9	0.2	-	1.8	...	0.6	0.6
		国	27.52	1.83	2.60	3.50	42.86	17.31	25.55	0.84	0.23	2.88	...	0.58	2.33
小学校	平成 20年度	県	26.0	3.6	5.9	14.6	66.0	34.8	31.2	3.0	1.9	4.5	3.6	0.7	3.5
		国	29.87	5.10	5.23	11.86	63.79	30.89	32.90	3.32	2.19	3.49	2.67	0.69	3.89
	21年度	県	29.5	4.2	5.5	13.3	65.0	34.5	30.4	2.5	2.0	3.7	4.5	0.6	2.5
		国	29.71	5.27	5.47	12.57	61.79	30.32	31.47	3.23	2.17	3.31	2.51	0.81	3.99
	22年度	県	29.3	4.3	6.2	10.9	61.1	34.2	26.9	3.0	3.0	3.8	1.8	0.6	3.6
		国	29.91	4.83	5.43	11.66	59.63	29.20	30.44	3.53	2.17	3.38	2.48	0.75	4.19
	23年度	県	31.8	3.6	6.6	10.6	61.9	33.8	28.1	2.8	1.3	3.6	2.3	0.5	3.3
		国	29.91	5.34	5.52	12.50	57.20	28.65	28.56	3.03	1.86	3.30	2.51	0.75	4.34
	24年度	県	29.9	5.2	6.9	13.1	61.1	34.3	26.8	3.2	2.2	3.3	2.6	0.6	3.6
		国	30.68	5.44	5.39	12.19	55.76	28.36	27.41	3.23	2.07	3.25	2.30	0.75	4.22
中学校	平成 20年度	県	54.5	3.3	3.9	8.0	52.5	33.9	18.6	6.8	7.3	2.9	4.0	2.3	2.5
		国	52.60	4.48	3.55	10.82	56.00	30.36	25.64	5.81	5.86	2.66	3.45	2.49	3.00
	21年度	県	58.2	3.9	4.1	9.2	54.6	33.6	21.0	5.5	5.2	2.8	3.7	1.1	3.3
		国	52.54	4.90	3.35	10.83	52.88	28.79	24.09	5.15	4.92	2.58	3.28	2.46	2.96
	22年度	県	55.3	2.6	2.9	6.8	51.9	32.1	19.7	6.9	5.9	3.4	2.8	1.4	2.3
		国	52.73	4.65	3.56	10.67	50.60	28.02	22.58	5.52	5.15	2.56	3.36	2.61	3.02
	23年度	県	X	3.5	3.4	8.0	49.6	30.6	19.0	9.6	8.5	3.2	3.5	1.8	2.5
		国	51.59	5.39	3.28	11.75	48.31	26.75	21.56	5.09	4.82	2.42	3.36	2.60	2.83
	24年度	県	69.1	3.6	3.7	10.5	47.1	28.4	18.6	6.3	5.6	2.7	3.2	1.9	1.6
		国	54.38	4.67	3.62	11.39	45.67	25.55	20.12	4.84	4.26	2.47	3.32	2.50	2.95
高等学校	平成 20年度	県	71.9	3.0	3.0	6.9	65.5	42.0	23.5	7.2	6.5	3.2	4.0	2.0	2.1
		国	57.98	3.70	2.02	8.81	65.48	35.99	29.49	6.17	6.09	2.32	3.10	2.82	1.82
	21年度	県	72.4	3.5	2.4	8.3	62.2	37.3	24.8	9.6	8.1	3.0	3.8	1.0	1.8
		国	59.37	3.70	2.01	9.61	62.18	34.73	27.45	5.32	5.35	2.43	3.33	2.88	1.88
	22年度	県	X	2.9	3.8	8.1	63.1	36.9	26.2	11.0	9.2	3.1	4.3	1.6	1.5
		国	55.64	3.44	1.61	8.45	59.95	34.21	25.74	5.16	5.07	2.23	3.16	2.84	2.08
	23年度	県	X	3.2	3.4	9.3	65.5	35.3	30.2	11.7	10.3	1.9	3.7	1.2	1.3
		国	60.93	3.77	1.64	8.81	58.46	32.24	26.22	5.22	4.95	2.06	3.13	2.92	1.94
	24年度	県	73.7	2.8	3.0	10.8	59.5	36.1	23.4	7.7	7.1	2.6	3.1	1.3	1.5
		国	64.47	3.70	1.88	8.63	57.60	32.34	25.26	5.51	5.29	2.07	3.02	2.67	1.91

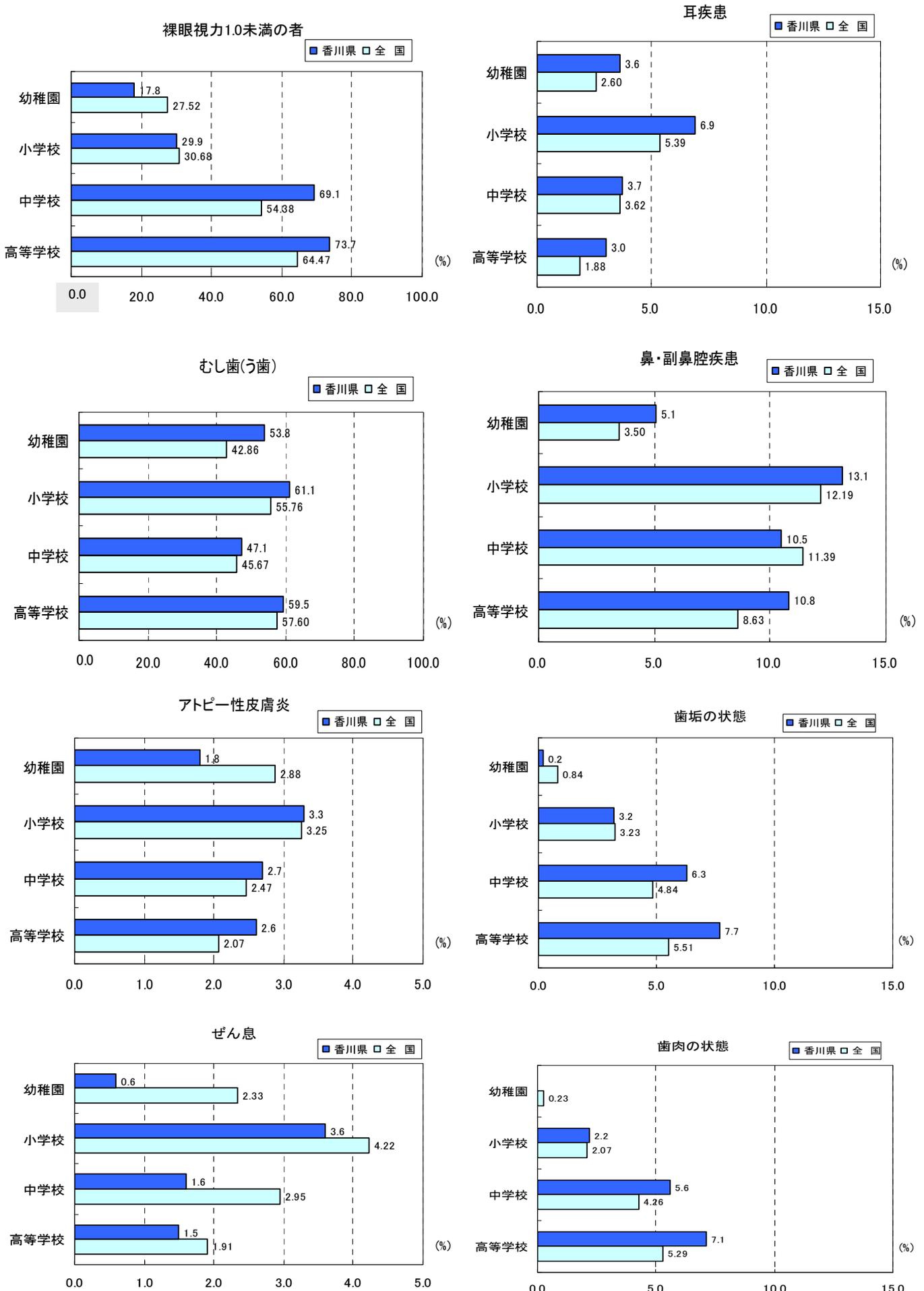
(注) 1 心電図異常については、6歳、12歳、15歳のみ実施している。

2 「…」については、調査対象とならなかった場合である。「-」については、該当者がいない場合である。

3 「X」は、疾病・異常被患率の標準誤差が5%以上、受検者数が100人(5歳は50人)未満または回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。

4 四捨五入の関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

図 25 全国との比較



<肥満傾向児・痩身傾向児の算出方法>

性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者を肥満傾向児、-20%以下の者を痩身傾向児としています。

算式は以下のとおりです。

$$\text{肥満度} = [\text{実測体重(kg)} - \text{身長別標準体重(kg)}] / \text{身長別標準体重(kg)} \times 100(\%)$$

$$\text{※ 身長別標準体重(kg)} = a \times \text{実測身長(cm)} - b$$

年齢	係数	男		女	
		a	b	a	b
幼稚園	5	0.386	23.699	0.377	22.750
	6	0.461	32.382	0.458	32.079
	7	0.513	38.878	0.508	38.367
小学校	8	0.592	48.804	0.561	45.006
	9	0.687	61.390	0.652	56.992
	10	0.752	70.461	0.730	68.091
	11	0.782	75.106	0.803	78.846
中学校	12	0.783	75.642	0.796	76.934
	13	0.815	81.348	0.655	54.234
	14	0.832	83.695	0.594	43.264
高等学校	15	0.766	70.989	0.560	37.002
	16	0.656	51.822	0.578	39.057
	17	0.672	53.642	0.598	42.339

出典：公益財団法人日本学校保健会「児童生徒の健康診断マニュアル(改訂版)」平成 18 年